



都祁山口神社の拝殿—奈良市で



(住所) 奈良市都祁小山戸町カモ  
 工谷640  
 (祭神) 大山祇神、大国主命  
 (交通) 名阪国道「道の駅針テラス」  
 (拝観) 境内自由  
 (駐車場) あり(無料)  
 (電話) なし  
 から車で南に約10分

### 都祁山口神社 (奈良市)

都祁山口神社は奈良市東部の旧都祁村に鎮座します。旧村教委が立てた説明板によると、大和の国に14方所ある山口神社の一つ。神武天皇の皇子・神八井耳命の子孫・都祁直が古代の「鬪鶏(都祁)の国」の地方官「国造」となり、都祁氏の氏神として祭ったのが起源とされます。同神社略記によると、神社前の田



にある小さな塚は、都祁氏の墓とされ、「森神さん」と呼ばれています。旧都祁村史によると、891(寛平3)年、現在地に都祁山口神社と都祁水分神社が遷座して社殿を建立。971(天禄2)年に水分神社が輶田

(同市都祁友田町)に移され、山口神社を上宮、水分神社を下宮と呼ぶ場合もあります。境内に宮池と鏡池があり、裏山の南方で湧き出た水が二つの池や田畑を潤します。流れる水音が美しく、分水嶺に当たるこの地に水の神が宿っているのだと感じます。

本殿の背後の尾根を登ると、頂上に東西約9mのゴシャオ(御社尾)と呼ばれる巨岩があります。昔から神が鎮座する「磐座」として敬われ、10月の例祭には水分神社の神輿のお渡りがあり、「水分さんの里帰り」として、境内で火をたき、盛大に迎えられます。(奈良まほろばソムリエの会員 小西和子)

# 神武天皇皇子の子孫祭る